

ズームアップ

稚内市子ども芸能祭・南中ソーラン祭

8月の最終週、北防波堤ドーム公園で「最北端・食マルシェ2016」と「稚内市子ども芸能祭・南中ソーラン祭」が盛大に開催。

27日の「稚内市子ども芸能祭、南中ソーラン祭」は、稚内市内の小中学校、幼稚園、保育園など24団体が参加。息の合った迫力ある演舞を披露し会場は大いに盛り上がりました。

27、28日の両日開催された「最北端・食マルシェ」では、稚内の豊かな自然の中で生まれた「稚内ブランド」や地元の食材にこだわった「安心・安全」な特産品をはじめ、目移りしてしまうほど美味しいものがずらり。訪れた人は最北の海の幸・山の幸に舌鼓を打ち最北の「食」を満喫しました。



最北端・食マルシェ



いざという時のために…



9月4日、稚内消防署で「救急の日・消防フェア」が開催されました。救急業務や救急医療に対して正しい理解と知識を深めてもらうことを目的として開催されたもので、救急蘇生法や応急手当の体験などのほか、消防自動車の搭乗体験、煙体験、消火器、放水体験などたくさんのメニューが用意されました。特に人気を集めた消防自動車の搭乗体験では子どもたちも消防士になりきって大喜び。

実際に消防士たちに説明を受けながら救急蘇生法を学ぶコーナーでは、参加者のまなざしも真剣そのもの。いざという時に正しい処置が行えるようキャラクターと一緒に学びました。

交通安全への決意、気持ち新たに…



9月下旬に展開される秋の全国交通安全運動を前に9月14日、「住民大会」が総合文化センターで開催され、関係者120人が集まりました。大会では交通事故発生概況報告や運動の実施計画を説明したのち、参加者を代表して稚内市交通安全母の会の阿部 雅子さんが「高齢者や子どもを見かけたら、徐行など思いやりのある運転を心がけ、交通ルールを守り、安全確認を実践します」と、交通安全宣言を読み上げ、事故防止に向け気持ちを新たにしていました。

大学が地域に果たす役割を報告



稚内北星学園大学では、9月17日、18日に「第1回COC全国シンポジウム」を開催。市内のほか、全国から2日間で延べ250人が参加しました。

17日は、25年にわたり宗谷・稚内の教育を研究されている名古屋大学大学院の植田 健男教授をお招きしての基調講演のほか、パネルディスカッションが行われました。18日は、地域活動報告会として「地域教育」「地域観光」「まちなか振興」の3つのグループに分かれ、学生たちが行ってきた活動の発表を行ったほか、学生がガイド役を担う観光スポットの視察が行われました。参加者は「大学が地域のために、様々な活動を行っていることを知る事ができて、とてもいい機会になりました」と話していました。